東日本ユニオンにいがた

http://www.geocities.jp/higashinihonunion_niigata/

JR東日本労働組合新潟地方本部
２０１８年９月１日発行
第１号（通巻第１０１号）
発行者：星山 圭　編集者：教育・広報部

ＪＲで働くすべての仲間の利益を守るため 職場からの運動を全組合員で取り組もう！

新たな仲間と共に更なる組織の強化拡大を実現しよう！

新潟地方本部　星山執行委員長あいさつ

ＪＲ東日本労働組合新潟地本は8月26日、新潟東映ホテルにおいて、約１８０名の組合員が結集するなか、第６回定期大会を開催しました。代議員の真摯な議論と傍聴者の応援により、熱気あふれる大会となりました。職場で取り組んできた1年間のたたかいの総括を行い、教訓を確認し合うと共に、向こう1年間の方針を打ち立てました。

今大会には１７０名を越える組合員の結集を頂いた。団結を大切にするこの仲間を誇りに思う。

昨年の大会では、ＪＲ労働運動の一元化が必要であり、業務問題の解決を通じた組織の強化・拡大を全組合員で実践していくことを決定した。

この１年間は激変の１年だった。大きな変化に対して私たちはどの様に対応できたのか。組合員や仲間を不利益や理不尽から守るために、いかに組織として全組合員で取り組めたのかを振り返ろう。

やれる者だけの運動は役員だけの運動となり、最後には職場を知らず見ようともしない、組合員を置き去りにした、役員のための運動となってしまうだろう。

１人ひとりは弱い労働者であるからこそ団結して経営側に立ち向かう。その労働組合が、自分さえ、自分たちの組織だけ良ければ良いとなれば、それは組合員のための労働組合とは言えない。

その様な弱さも持っているということも確認し、指摘し合いながら進んでいこう。

働く仲間の利益を守るため職場にたたかいの旗を立てよう

ＪＲ東労組から多くの組合員が脱退した。労働組合に加入していない労働者が職場で多数を占める現状は労働側とすれば「良し」とはならない。

効率化施策や会社組織の再編、ルールの見直し、変更、改正が次々と提案され実施されている。

会社は「スピード感」と言う。聞こえは良いが見切り発車により現場実態にそぐわない進め方になり、現場やグループ会社の労働者がその穴埋めのために本当に寝る間を惜しんで働く結果になっている。このような経営姿勢を許すわけにはいかない。

びゅうプラザの業務移管、駅検査業務の廃止、保線職場の最適化、駅職場の業務委託拡大などが矢継ぎ早に実施され、現在、乗務員勤務制度の見直しが迫られている。

自分の職場、仕事、働き方、つまり労働の価値が変えられようとしている中で職場の現状はどうか？私たち１人ひとりはどう考え、何をたたかっているだろうか？

これまで私たちは、新津車両製作所の経営移管、直江津地区の廃止などに対して、働く仲間の利益を守るために職場からたたかいを創り出してきた。

今、たたかわずして負けるのか？新たなたたかいに挑むのか？いまこそ、たたかいの旗を立て再度たたかいを創り出そう！

仲間の絆を大切に 顔を合わせて語りあおう

昨年の大会以降、営業、設備、運輸、ＪＲ採用、シニア、そしてエルダー社員など、それぞれの系統や年代の皆さんに、東日本ユニオンを選択して加入していただいた。

私たちの要求実現のためには組織の力が必要であり、組織を拡大するためには要求を実現しうる組織の運動が必要だ。そして、そのために大切なのは私たち１人ひとりの仲間、ＪＲで働く労働者のつながりだ。集まるということ、顔を合わせて語らうことが如何に重要なのかということも痛感した１年でもあった。

ＪＲで働く仲間のつながりを大切に、新たな仲間と共に職場から全組合員でたたかいを創り出していこう。

大会を円滑に進行した議長団
左：有田議長（酒田支部）
右：外谷副議長（上中越支部）

仲間の実践・たたかいに学び組織の強化・拡大を実現しよう

中央本部 生田書記長

来賓あいさつで中央本部の生田書記長は「約５万４千人の社員のうち３割が50代。６割が労働組合に加入していない。新入社員が加入しなければ、労働組合そのものがＪＲ東日本から無くなりかねない」と現状を述べました。

その上で「職場に労働組合に所属しない社員が大多数を占める中で、会社提案の内容を広め議論し交渉へつなげた仲間のたたかいに学ぼう」として、職場からの実践を通じて労働組合の必要性を広め、この間の取り組みで培った力を組織の強化・拡大に繋げようと訴えました。

◆　◆

質疑では13名の代議員から発言を受けました。

組織の強化・拡大に向けた取り組みの成果と課題、職場の問題を解決するために積み重ねた地道な取り組み、会社施策に対して安全や健康、労働者の利益をはじめ様々な角度から行った検証、職場に労働組合に所属しない社員が多数を占める状況の中で組合員や仲間の利益を守るための模索など、具体的な実践を通じて得てきた教訓に富んだものでした。

組合員と家族そしてＪＲに働く全ての仲間の利益を守るために、全組合員でたたかいを創り出していきましょう！